

# 都市再生整備計画 事後評価シート

湊酒田中心市街地地区

平成27年3月

山形県酒田市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	山形県	市町村名	酒田市	地区名	湊酒田中心市街地地区			面積	111.4 ha
交付期間	平成22年度～平成26年度	事後評価実施時期	平成26年度	交付対象事業費	531.8百万円	国費率	0.45		

1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名						
	基幹事業	【公園】 日和山公園、中央公園 【高質空間形成施設】 船場町一丁目1号線改良、日和山周辺地区環境整備、舞娘坂環境整備	事業名			削除/追加の理由		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響	
	提案事業	【地域創造支援事業】 既存建物活用事業 【事業効果調査】 事業効果分析	事業名			削除/追加の理由		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響	
	当初計画から削除した事業	【道路】 市道中通り線改良 【地域生活基盤施設】 駅前広場、駅前駐輪場 【地域生活基盤施設】 まちなか駐輪場、自転車観光ルート 【高質空間形成施設】 山車運行経路	【地域創造支援事業】 ・ファサード整備事業 ・まちなかイルミネーション事業 ・街かどギャラリー ・酒田まちなか推進事業 ・酒田まつり環境整備 【まちづくり活動支援事業】 まちづくり検討事業	【地域創造支援事業】 ・ファサード整備事業 ・まちなかイルミネーション事業 ・街かどギャラリー ・酒田まちなか推進事業 ・酒田まつり環境整備 【まちづくり活動支援事業】 まちづくり検討事業	・地元商店街からの既存の道路を活用した地域活性化を再検討したいとの申し出があったため削除 ・駅舎の改修計画について鉄道事業者との協議の進展により削除 ・酒田まちなか推進事業に統合し、一元的に実施するため削除 ・祭り山車運行計画の変更により必要性が低下したため削除	・アーケードは撤去したが構成店舗の減少等から事業を削除 ・民間団体が独自に先行実施したため関連事業に移行 ・内容、実施主体を見直し街なかプロモーション事業として再構築 ・事業効果を勘案して暮らしにぎわい再生事業に付け替え ・祭り山車運行計画の変更により必要性が低下したため削除 ・重要文化的景観との連携のため関連事業に移行	直接的な要因として大きく目標数値に影響することは考えられないため、数値目標は据え置く。	直接的な要因として大きく目標数値に影響することは考えられないため、数値目標は据え置く。	
新たに追加した事業	基幹事業	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
提案事業	【地域創造支援事業】 ・個店誘致支援事業 ・街なかプロモーション事業 ・豊里十里塚線下水道管渠移設事業 ・酒田駅発観光まちなか事業 ・日和山公園魅力創出事業	【地域創造支援事業】 ・個店誘致支援事業 ・街なかプロモーション事業 ・豊里十里塚線下水道管渠移設事業 ・酒田駅発観光まちなか事業 ・日和山公園魅力創出事業	・大規模店舗への出店支援を行い集客波及効果を高め賑わいを創出するため追加 ・空き店舗を活用した地産池消等を推進する事業を行うため追加 ・道路拡張に併せ下水道管渠の効率的な移設と通行者の利便性を高めるため追加 ・駅から中心市街地へ行きたくなる仕掛けづくりを行うことで回遊性を高めるため追加 ・園内の魅力を充実させ賑わいを創出するため追加	・大規模店舗への出店支援を行い集客波及効果を高め賑わいを創出するため追加 ・空き店舗を活用した地産池消等を推進する事業を行うため追加 ・道路拡張に併せ下水道管渠の効率的な移設と通行者の利便性を高めるため追加 ・駅から中心市街地へ行きたくなる仕掛けづくりを行うことで回遊性を高めるため追加 ・園内の魅力を充実させ賑わいを創出するため追加	賑わい創出に資する事業であるが、直接的な要因として大きく目標数値に影響することは考えられないため、数値目標は据え置く。				
交付期間の変更	当初	平成22年度～平成26年度	変更	平成 年度～平成 年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		なし	なし	

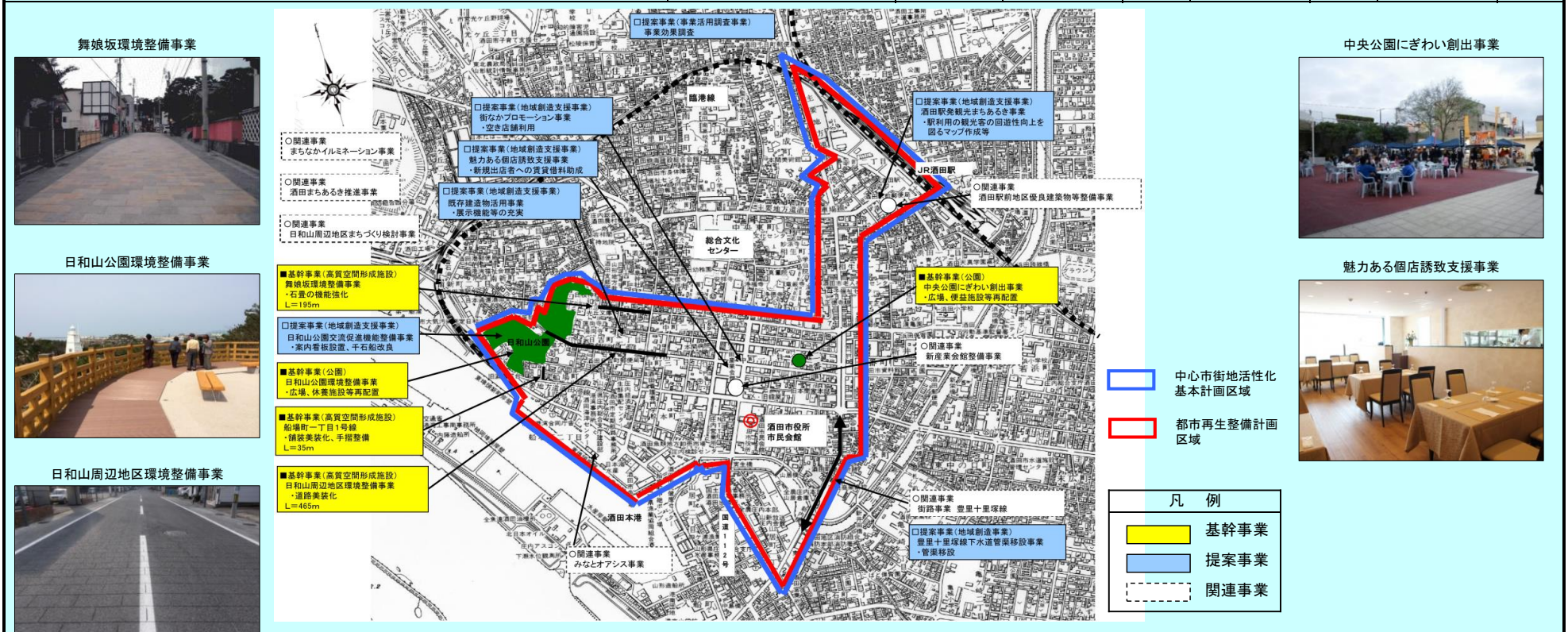
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
	単位	従前値	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
指標1	歩行者・自転車通行量(平日)	人/日	2,276	H20	3,200	H26	2,370	2,194	×	あり なし	中心商店街への来街機会を増やし、回遊性を高めることで歩行者自転車交通量を増やしていく計画であったが、1日あたり1千人超の増加要因として見込んだ民間事業者による駅前開発が中断したこともあり、未達成となった。	平成27年4月
指標2	観光施設入込数	人/年	1,549,077	H19	1,610,000	H26	1,623,336	1,542,055	×	あり なし	映画『おくりびと』のロケ地「NKエージェント」の公開(H21年4月)、「みなと市場」の開設(H22年1月)などにより、順調に入込数が増加し、計画期間中に目標値をクリアした。その後、「山王くらぶ」の拡充をはじめ、街なか観光の推進を図ったものの、映画『おくりびと』効果の減退や東日本大震災、経済情勢の低迷等から、最終的に従前値を割り込む状況となった。	平成27年6月
指標3	観光用自転車利用者数	人/年	9,382	H20	12,500	H26	9,096	7,487	×	あり なし	自転車の設置台数は84台(H20年度)から107台(H26年度)に、貸出場所も1箇所(H20年度)から15箇所(H26年度)に増やすなど利用機会を増やすとともに、回遊性を向上させるパンフレット等を作成したものの、観光入込数が減少したことと比例し、自転車利用者も減少したため、目標値は未達成となった。	平成27年4月
指標4	中心市街地住みやすさ調査	%	34.7	H19	40.0	H26	31.2	39.5	△	あり なし	市民の憩いの空間でもある日和山公園や中央公園の魅力向上、日和山地区のまちなみ整備、中心商店街の空き店舗活用に関する事業等、多様な整備・支援を図るとともに、イベント開催等のにぎわい作りにより、指標の改善につながったものと考えられるが、駅前における未着手の状況などから目標値は未達成となった。	平成27年度以降



## 様式2-2 地区の概要

### 湊酒田中心市街地地区(山形県酒田市) 都市再生整備計画の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
	歩行者・自転車通行量(平日)	単位:人/日	2,276	H20	3,200	H26	2,194	H26
大目標:湊まちルネッサンス(再興) - 湊のにぎわいと交流のあるまちづくり 目標1:にぎわいあふれる商業のまち 目標2:訪ねて楽しい観光のまち 目標3:暮らしやすく多様な世代が住むまち	観光施設入込数	単位:人/年	1,549,077	H19	1,610,000	H26	1,542,055	H25
	観光用自転車利用者数	単位:人/年	9,382	H20	12,500	H26	7,487	H25
	中心市街地住みやすさ調査	単位:%	34.7	H19	40.0	H26	39.5	H26



まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成23年度に市と商工会議所が連携して設置した中心市街地まちづくり推進センターの商業振興施策により、来街者数の減少に一定の効果があつた。</li> <li>湊酒田の文化にふれる日和山公園やイベント利用の多い中央公園を整備することで、にぎわい創出や魅力ある居住環境づくりに取り組むことができた。</li> <li>既存道路の美装化など観光施設周辺の整備を進めたことで、観光資源の魅力向上につながつた。</li> <li>観光用自転車の貸出台数及び貸出場所を増やすことで利用機会が拡充された。</li> <li>関連事業に位置付けした駅前関連事業、住宅供給事業、新産業会館整備事業などの大型事業が外的要因等により着手することができなかった。</li> </ul>
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>現計画において、目標指標が未達成で大目標「湊まちルネッサンス(再興)」の実現に至っていないため、引き続き切れ目ない新計画を策定し、積極的に取り組んでいく。</li> <li>中心市街地の商店経営の安定化や集客イベントの開催、空き店舗を活用した賑わいの創出等により、引き続き中心市街地の活性化を図る。</li> <li>中心市街地にある観光施設間の回遊性を向上させることで、街なかの観光の推進を図る。</li> <li>市民活動等の交流ができる拠点を整備するとともに、公共交通の充実を図り、街なかの交流人口の増進と回遊性の向上を図る。</li> <li>酒田駅周辺や山居倉庫周辺は、まちづくりの重要な場所であるため、魅力を高める事業の実現に向けて取り組んでいく。</li> </ul>

# 都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

## (1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② ~~その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測~~
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

## (2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

## (3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② ~~数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理~~
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

## (4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6-当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

## (5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7-事後評価原案の公表

## (6) 評価委員会の審議

- 添付様式8-評価委員会の審議

## (7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9-有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値		●			
D. その他( )		●			

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	市道中通り線改良事業	62.4	L=272.1m	—		平成26年度に計画変更して削除。地元商店街からの道路を活用した活性化の再検討の申し出による。	「目標1:にぎわいあふれる商業のまち」に関連するが、指標および数値目標は据え置く		
公園	日和山公園環境整備事業	60.1	A=3,000㎡	203.7	A=4,350㎡	利用拡大を図るため整備箇所を見直したことから、事業規模および事業費が増加。	影響なし		●
	中央公園にぎわい創出事業	35.8	A=2,000㎡	42.5	A=1,000㎡	整備内容と整備箇所を見直した結果、事業規模は縮小したが、事業費は増加。	影響なし	●	
地域生活基盤施設	駅前広場等環境整備事業	160.0	A=6,400㎡	—		平成24年度に計画変更して削除。駅舎の改修計画について鉄道事業者との協議が進捗したため削除。	「目標3:暮らしやすく多様な世代が住むまち」に関連するが、指標および数値目標は据え置く		
	駅前駐輪場整備事業	40.0	A=1,000㎡	—		平成24年度に計画変更して削除。駅舎の改修計画について鉄道事業者との協議が進捗したため削除。	「目標3:暮らしやすく多様な世代が住むまち」に関連するが、指標および数値目標は据え置く		
	まちなか駐輪場整備事業	2.2		—		平成23年度に計画変更して削除。酒田まちあるき推進事業に統合し、一元的に実施。	「目標2:訪ねて楽しい観光のまち」に関連するが、関連事業に移行したため、指標および数値目標は据え置く		
	自転車観光ルートづくり事業	14.7		—		平成23年度に計画変更して削除。酒田まちあるき推進事業に統合し、一元的に実施。	「目標2:訪ねて楽しい観光のまち」に関連するが、関連事業に移行したため、指標および数値目標は据え置く		
高質空間形成施設	船場町一丁目1号線改良事業	15.0	L=66.4m	15.4	L=35m	階段の改修に留め、舗装箇所の美装化を中止したため事業規模が減少。地形の養生等で事業費増加。	影響なし	●	
	日和山周辺地区環境整備事業	19.0	L=320m	90.2	L=465m	中心商店街から日和山地区まで一体感のある街並みに整備するため事業内容を変更。	影響なし	●	
	舞娘坂環境整備事業	55.5	L=195m	55.4	L=195m		影響なし	●	
高質空間形成施設	山車運行経路整備事業	60.0	L=100m	—		平成23年度に計画変更して削除。祭り山車運行計画の変更により必要性がなくなったため削除。	「目標2:訪ねて楽しい観光のまち」に関連するが、指標および数値目標は据え置く		

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業									
事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造 支援事業	ファサード整備事業	18.0		—		平成26年度に計画変更して削除。 アーケードの撤去後、構成店舗の 減少等で効果が見込めないため。	「目標1:にぎわいあふれる商業のまち」に関連するが、指標および 数値目標は据え置く		
	まちなかイルミネーション事業	7.5		—		平成23年度に計画変更して削除。 民間団体が独自に先行実施したた め関連事業に移行。	民間主体の実施により影響なし		
	街かどギャラリー事業	4.0		—		平成23年度に計画変更して削除。 街なかプロモーション事業として内容 及び実施主体を見直したため削除。	事業内容及び実施主体の変更のため影響なし		
	酒田まちあるき推進事業	3.6		—		平成24年度に計画変更して削除。 事業効果を勘案し暮らしにぎわい 再生事業に付け替え。	「目標2:訪ねて楽しい観光のまち」に関連するが、関連事業に移 行したため、指標および数値目標は据え置く		
	酒田まつり環境整備	4.0		—		平成23年度に計画変更して削除。 祭り山車運行計画の変更により必 要性がなくなったため削除。	「目標2:訪ねて楽しい観光のまち」に関連するが、指標および数値 目標は据え置く		
	街なかプロモーション事業	—		7.1		平成23年度に計画変更して追加。 商店街の空き店舗を活用した地産 地消を推進するギャラリーの設置。	事業内容及び実施主体の変更のため影響なし		●
	酒田駅発観光まちあるき事業	—		0.4		平成24年度に計画変更して追加。 駅から中心市街地に行く仕掛けづ くりにより回遊性を向上。	「目標2:訪ねて楽しい観光のまち」に関連するが、指標および数値 目標は据え置く	●	
	既存建物活用事業	10.0		7.6		2棟計画していた事業が1棟になっ たため減少。	「目標2:訪ねて楽しい観光のまち」に関連するが、指標および数値 目標は据え置く	●	
	個店誘致支援事業	—		55.1		平成22年度に計画変更して追加。 大規模店舗への出店支援を行い集客 波及効果を高め賑わいを創出。	「目標1:にぎわいあふれる商業のまち」に関連するが、指標および 数値目標は据え置く		●
	豊里十里塚線下水道管渠移設事業	—		27.2		平成23年度に計画変更して追加。 道路拡張にあわせ下水道管渠移 設を効率的に実施。	「目標3:暮らしやすく多様な世代が住むまち」に関連するが、指標 および数値目標は据え置く	●	
日和山公園魅力創出事業	—		25.2		平成25年度に計画変更して追加。 公園内の魅力を充実させ賑わいを 創出。	公園事業と関連した整備のため、指標および数値目標は据え置く		●	
事業活用調査	事業効果調査	3.0		2.0					●
まちづくり 活動推進事業	まちづくり検討事業	2.7	日和山周辺地区	—		平成24年度に計画変更して削除。 重要文化的景観との連携のため関 連事業に移行。	影響なし		

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(参考) 関連事業

事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考
			当初計画	最終変更計画	当初計画	最終変更計画		
酒田駅前地区優良建築物等整備事業		幸町一丁目地内	1,393.0	36.0	平成22年～平成26年	平成22年～平成25年	中断 建設費の高騰等により契約 に至らず中断	社会資本整備総合交付金 (優良建築物等整備事業) 事業主体: 民間
都市計画道路豊里十里塚線整備事業		本町一丁目地内	—	—	—	—	実施中 南部と中心市街地を結ぶ重 要な路線の4車線化	社会資本整備総合交付金 (道路事業(街路)) 事業主体: 山形県
みなとオアシス整備事業		酒田本港地区	10.0	10.0	平成19年～平成23年	平成19年～平成23年	完成 案内標識、施設看板等を設 置し、回遊性の向上に寄与	社会資本整備総合交付金 (みなと振興計画) 事業主体: 山形県、酒田市
新産業会館整備事業		中町二丁目地内	—	—	平成22年～平成24年	—	検討中	事業主体: 民間
まちなかイルミネーション事業		中町商店街地区	7.5	—	平成23年～平成25年	—	実施中 中町モールのイルミネーショ ンにより中心市街地の活性 化に寄与	事業主体: 民間
酒田まちあるき推進事業		中活基本計画区域内	5.0	5.0	平成25年～平成28年	平成26年～平成28年	実施中 酒田獅子を活用したにぎわい の創出	社会資本整備総合交付金 (暮らし・にぎわい再生事業) 事業主体: 酒田市
日和山周辺地区まちづくり検討事業		中活基本計画区域内	2.7	0.0	平成22年～平成26年	—	未実施 歴史的にも重要な地域であ るため、まちづくりについて引 き続き検討を行う。	事業主体: 酒田市



添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方(時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値(ア)		従前値(イ)		目標値(ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の達成見込みの有無		
				基準年度		基準年度		目標年度					あり	なし		
指標1	歩行者・自転車通行量(平日)	人/日	中心市街地3地点における、平日12時間(10月第1木曜日、7~19時)の歩行者、自転車通行量とする。平成26年10月2日(木)に人手により観測した実績値を評価値とする。	3,112	H11	2,276	H20	3,200	H26	モニタリング	H24	2,370	モニタリング	△		●
										事後評価	確定見込み	●	2,194	事後評価		
指標2	観光施設入込数	人/年	中心市街地内の主要観光施設14施設について、観光振興課が集約している直近の年間入込数を見込み値とする。	217,201(9施設)	H12	1,549,077	H19	1,610,000	H26	モニタリング	H24	1,623,336	モニタリング	○		●
										事後評価	確定見込み	●	1,542,055	事後評価		
指標3	観光用自転車利用者数	人/年	観光振興課が集約している直近の観光用自転車の年間利用者数を見込み値とする。	-	-	9,382	H20	12,500	H26	モニタリング	H24	9,096	モニタリング	×		●
										事後評価	確定見込み	●	7,487	事後評価		
指標4	中心市街地住みやすさ調査	%	平成26年10月に市内7箇所にて中心市街地に関する聞き取り調査を実施。中心市街地が住みやすいと思うと回答した人の割合を算出し、評価値とする。	-	-	34.7	H19	40.0	H26	モニタリング	H24	31.2	モニタリング	×		●
										事後評価	確定見込み	●	39.5	事後評価		

指標	目標達成度○△×の理由(達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項(指標計測上の問題点、課題等)
指標1	歩行者・自転車交通量の増加要因として想定していた駅前関連事業(1千人超/日)について、建設費の高騰等の外的要因により断念することになったため、目標の達成には至らなかった。また、駅前関連事業については、新たな計画作成から始めることが必要となったため、今後も通行量の増加要因が見当たらず1年以内の数値目標の達成見込みは困難であると判断した。	平成21から25年度までは、平成20年度の指標を上回っていたが、平成26年度だけは、夕方1時間に雨が降ったことも指標に影響を与えたものと考えられる。また、全国道路交通情勢調査における調査地点を計測地としたため、観光や集客施設等の回遊ルートから外れており、今後は計測地点を各商店街の主要地点に見直す必要がある。
指標2	アカデミー賞を受賞した映画「おくりびと」のロケ地となったことで「NKエージェント」が一躍脚光を浴びたほか、「みなと市場」の新規整備もあり、平成21年度には180万人を超える入込数があったものの、これ以降、入込数は漸減し、目標値の達成には至らなかった。今後、価値観や嗜好の多様化に加え、消費税増税による消費の冷え込みなど観光をめぐる諸情勢は厳しいことが予想され、1年以内の数値目標の達成見込みは困難であると判断した。	映画「おくりびと」効果が大きかったこと、東日本大震災が発生したこと等指標の計測をする上で両極端な事案が期間中に発生した。今後は、団体旅行から個人旅行への形態の変化に対応しながら、中心市街地に点在する施設間の回遊性の向上を一層推し進めていくことが必要である。
指標3	観光用自転車の貸出数及び貸出場所を増やすことで利用機会の拡充を図ったものの、観光施設入込数の減少などから観光用自転車の利用者数についても目標の達成には至らなかった。観光施設入込数と同様、今後も引き続き厳しい情勢にあることから、1年以内の数値目標の達成見込みは困難であると判断した。	観光施設入込数よりも大きな減少率となっているが、自転車のため降雨や強風など天候の影響も受けやすいことなどから、賑わいを創出するためには、バス等の運行による回遊性の向上策なども同時に検討する必要がある。総じて観光施設入込数で指標としての比較が可能なものと考えられることから、今後は参考数値として扱う。
指標4	評価値は、従前値を上回り、目標値と0.5ポイント差となっていることから概ね達成できている。今後も引き続き中心市街地での活性化事業を実施することで、数値目標を達成する可能性は大きい。駅前関連整備に対する意見も多くあるため、1年以内の数値目標の達成見込みは困難であると判断した。	「住みやすい」という市民の感じていることを率直に聞いた結果であるが、指標として扱うには成果が読み取りにくい。今後は参考数値として扱う。

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○: 評価値が目標値を上回った場合

△: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×: 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測

指 標	単位	データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題 等)
			基準 年度		基準 年度						
その他の 数値指標1	-	-	-		-		モニタリング			-	-
							事後評価	確定			
その他の 数値指標2	-	-	-		-		モニタリング			-	-
							事後評価	確定			
その他の 数値指標3	-	-	-		-		モニタリング			-	-
							事後評価	確定			

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

・商店街組織からは「新しい店が開業するなど空き店舗の増加に歯止めがかかった感がある」との評価がある。

## (2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

### 添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
担当課が所管する統計およびアンケート調査などによるモニタリングを実施した。	予定どおり実施した	【実施頻度】毎年度1回程度、アンケート調査は計画期間内に2回実施 【実施時期】アンケートは中間年(H24年度)と最終年(H26年度)に実施 【実施結果】採用した指標は、担当課により概ね年度毎の数値が整理されているため、モニタリングを容易に実施することができ、かつ、交付期間中に供用した事業の効果を確認することができた。	担当課の統計により確認する。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由 )		
-	予定どおり実施した	-	-
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由 )		

### 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
酒田市中心市街地活性化協議会	予定どおり実施した	【実施頻度】年1回以上 【実施結果】酒田市中心市街地活性化基本計画と連携した事業について協議を行った。	今後も協議会と連携し、中心市街地の活性化に資する事業を推進していく。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由 )		
まちづくり検討会	予定どおり実施した	-	最上川の重要文化的景観の指定に向けた取組みに注視し、必要に応じた支援を行う。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由 最上川の重要文化的景観の指定に向けた取組みと連携を図るため )		

### 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名:組織の概要	
酒田市中心市街地活性化協議会	予定どおり実施した	酒田市中心市街地活性化基本計画と連携し、事業の推進や協議を行い、中心市街地の活性化に取り組んでいる。	酒田市中心市街地活性化協議会	今後も協議会と連携し、中心市街地の活性化に資する事業を推進していく。
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由 )			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内担当者会議	各課担当職員(都市デザイン課、都市計画課、土木課、下水道課、商工港湾課、観光振興課)	適宜	都市デザイン課

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		-		-		-		-	
指標名									
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業									
提案事業									
関連事業									

※指標改善への貢献度

- ◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- ：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- －：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用				
-------	--	--	--	--

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1			指標2			指標3			指標4		
指標名		歩行者・自転車通行量(平日)			観光施設入込数			観光用自転車利用者数			中心市街地住みやすさ調査		
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業	[公園]日と山公園環境整備事業	△	中心商店街への来街機会を増やすとともに、回遊性を向上させる事業を実施し、計画期間中は従前値を上回っている状況にあったが、駅前関連事業が中止になったことが未達成の大きな要因と考えられる。	Ⅲ	△	みなと市場の整備、映画おくりびとのアカデミー賞受賞等により、順調に入込数が増加し、計画期間中に目標値を達成した状況にあった。その後、山王くらの企画展の拡充をはじめ、街なか観光の推進を図ったものの、映画おくりびとが一過性となったことや東日本大震災の発生、経済情勢の低迷等の要因から、従前値を割り込む状況となった。	Ⅲ	△	観光施設及びそれらを有機的に結ぶ観光ルートの整備に併せ、観光用自転車の貸出場所と台数の拡充を図り、自転車観光の利便性向上に取り組んだものの、観光入込数の減少の影響から、観光用自転車の利用者も減少し、目標達成には至らなかった。	Ⅲ	△	市民の憩いの空間である公園整備や街なかの魅力を向上させる景観形成のほか、中心市街地まちづくり推進センターの取り組みによる活性化事業等、多様な取り組みを行ったことにより、指標の改善につながったものと考えられるが、娯楽施設や商業施設の充実などへの意見から目標達成には至らなかった。	Ⅲ
	[公園]中央公園にぎわい創出事業	△			-			△			△		
	[高質空間形成施設]船場町一丁目1号線改良事業	△			△			-			△		
	[高質空間形成施設]日と山周辺地区環境整備事業	△			△			△			△		
	[高質空間形成施設]舞娘坂環境整備事業	△			△			△			△		
提案事業	[地域創造支援事業]街なかプロモーション事業	△	Ⅲ	Ⅲ	-	Ⅲ	△	Ⅲ	△	Ⅲ	△	Ⅲ	
	[地域創造支援事業]酒田駅観光まちあるき事業	△			△		△						
	[地域創造支援事業]既存建物活用事業	△			△		△						
	[地域創造支援事業]個店誘致支援事業	△			-		△		△				
	[地域創造支援事業]豊里十里塚線下水道管渠移設事業	△			-		-		△				
	[地域創造支援事業]日と山公園魅力創出事業	×			×		×		×				
	[事業活用調査]事業効果調査	-			-		-		-				
関連事業	酒田駅前地区優良建築物等整備事業	××	-	-	-	-	-	×					
	都市計画道路豊里十里塚線整備事業	-	-	-	-	-	△						
	みなとオアシス整備事業	△	△	△	△	△	△						
	新産業会館整備事業	×	-	-	-	-	-						
	まちなかイルミネーション事業	-	-	-	-	-	△						
	酒田まちあるき推進事業	×	×	×	×	×	×						
	日と山周辺地区まちづくり検討事業	-	-	-	-	-	×						

※目標未達成への影響度

- ××: 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
- ×: 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
- △: 数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
- : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類

- 分類Ⅰ: 内的な要因で、予見が可能ない要因。
- 分類Ⅱ: 外的な要因で、予見が可能ない要因。
- 分類Ⅲ: 外的な要因で、予見が不可能ない要因。
- 分類Ⅳ: 内的な要因で、予見が不可能ない要因。

改善の方針 (記入は必須)	観光施設や商店街と連携し、引き続き中心市街地の魅力の向上に取り組み、来街者の増加に寄与する環境づくりを進める。また、酒田駅前についても引き続き整備に向けた検討を行う。	観光施設や商店街と連携し、観光資源のブラッシュアップや施設間の連携を強化するとともに、街なかを巡る回遊性の向上につながる仕組みづくりを行う。また、都市デザインの観点から、街なかに湊まち酒田を感じることができるよう切れ目の無いまちづくりを展開する。	観光用自転車による街なか観光の利用者層、ニーズを再確認するほか、利用拡大につながるイベントの企画・開催による自転車観光の機運の醸成を図り、観光用自転車の利用者が増加する仕組みづくりを進める。	中心市街地まちづくり推進センターによる活性化への取り組みや公共施設等の整備と併せ、語らいや交流を促す舞台づくりを進めることによって、地区の総合的な質や価値観の向上を図り、多様な世代が暮らしやすいまちづくりを進める。
------------------	-------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------

#### (4) 今後のまちづくり方策の作成

##### 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
酒田市中心市街地活性化推進会議	企画振興部都市政策調整監、建設部長、総務部長、企画振興部長、建設部技監、農林水産部長、商工観光部長	平成25年2月～平成26年11月 4回	都市デザイン課
酒田市中心市街地活性化推進会議幹事会	都市デザイン課長、財政課長、政策推進課長、土木課長、建築課長、都市計画課長、農政課長、商工港湾課長、観光振興課長	平成24年4月～平成26年11月 11回 (うち推進会議との同時開催2回含む)	都市デザイン課
酒田市中心市街地活性化協議会	酒田商工会議所、酒田まちづくり開発㈱、酒田駅前商店街振興組合、中町中和会商店街振興組合、中通り商店街振興組合、大通り商店街振興組合、東日本旅客鉄道㈱酒田駅、庄内交通㈱、酒田地区医師会、酒田市自治会連合会、酒田市企画振興部、酒田市商工観光部、酒田市建設部、(一社)酒田観光物産協会、NPO法人にこっこ、NPO法人元気王国、(公社)酒田青年会議所、酒田商工会議所産業振興委員会、(一社)山形県建設業協会酒田支部、(社)山形県宅地建物取引業協会酒田支部、酒田金融協会、東北公益文科大学	平成26年2月～平成27年1月 3回	都市デザイン課

##### 添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
中心市街地内の商業活動の 活性化と賑わいの創出	・空き店舗を活用して地元企業の取り組みを紹介する事業や大型店舗への出店支援により中心市街地の商業活動の活性化を図ることができた。	・中心市街地は、商店数、商品販売額及び従業員数が、いずれも減少傾向で推移しており、量販店等の郊外への出店による商業地の分散化により、地域全体の中での求心力が回復していない。こうした環境にあって、中心商店街では経営の安定化と個性的で魅力ある商業活動の展開を図る必要がある。	
観光施設間のネットワーク化 の不足と観光客の誘引	・既存建造物活用事業や回遊ルート的美装化等、観光施設やその周辺整備が進み、中心市街地内の観光資源の魅力向上を図ることができた。 ・観光用自転車の台数と貸出場所が増え、利用環境の拡充ができた。	・中心市街地の玄関口として位置する酒田駅周辺や山居倉庫周辺の環境整備を行い、魅力向上を図っていく必要がある。 ・観光客を街なか観光施設に誘導し、観光施設間の回遊性を向上させるため、公共交通や案内標識等の機能の充実を図る必要がある。	・中心市街地の活性化はまだ不十分であり、人口減少・少子高齢化が進む中、引き続き切れ目ない賑わい創出が必要である。 ・中心市街地の人口と世帯数の減少が進み、地域活力が減退しているが、将来にわたって持続可能な活力あるまちづくりを図る施策が必要である。
中心市街地内の居住人口の 減少による地域活力の減退	・市民の憩いの場である日和山公園や中央公園の整備が行われ、魅力ある居住環境づくりに取り組むことができた。	・長引く地域経済の低迷や建設費の高騰などから居住人口の増加に直接的に繋がる居住施設整備の見通しが立っていない。	・中心市街地内の観光施設、拠点施設間の回遊性が不十分であり、対応策が必要である。 ・酒田駅周辺、山居倉庫周辺の魅力を高めるための施策が不十分であり、都市機能の魅力の向上を図る施策が必要である。
他市町間、郊外地区との交流 の促進と交通環境の改善	・本市南部と中心部を結ぶ幹線道路の整備が進んでいる。	・中心市街地の玄関口である酒田駅周辺や山居倉庫周辺の整備に併せ、二次交通の強化に取り組む必要がある。	

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
A欄 効果を持続させるため に行う方策	空き店舗の活用による活性化	<ul style="list-style-type: none"> <li>新規開業者への各種相談やフォローアップのほか、商店街支援などの総合窓口として、中心市街地まちづくり推進センターが活動の中核を担っていく。</li> <li>空きビルを再利用し、公共施設の整備を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>街なかプロモーション事業の継続</li> <li>空きビル再生事業、中町庁舎改修事業への取り組み 等</li> </ul>
	中心市街地内における観光資源の魅力向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>中心市街地の観光施設の魅力向上と回遊性を促す仕組みづくりに取り組んでいく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>山居倉庫周辺整備、日和山公園環境整備、回遊ルート的美装化、中心市街地循環バスの運行への取り組み 等</li> </ul>

	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
B欄 改善策  ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	中心商店街の経営の安定化と個性的で魅力ある商業活動の展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>中心市街地まちづくり推進センターによる商店街振興策を継続していく。</li> <li>新庁舎整備の推進、空きビルの再生、既存建造物の活用を行うことで賑わい創出につなげていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>商店街等によるイベントの開催</li> <li>中町モールや中町庁舎の改修</li> <li>空きビル再生事業、中町庁舎改修事業への取り組み 等</li> </ul>
	中心市街地の玄関口の整備と観光施設への誘導	<ul style="list-style-type: none"> <li>本市の玄関口である酒田駅周辺と山居倉庫周辺の環境整備を図る。</li> <li>観光施設間の回遊性の向上を図るため、中心市街地の循環バスによる二次交通の強化やサイン整備を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>酒田駅周辺地区の基本計画の作成</li> <li>山居倉庫周辺の環境整備</li> <li>まち歩きを促すサインの整備</li> <li>中心市街地循環バスの運行 等</li> </ul>
	居住人口の増加に資する取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民活動、文化活動など様々な分野で活動できる拠点づくりを推進し、交流機能の充実を図る。</li> <li>高齢化社会が進展する中、空きビルに新しいサービス機能を付与し、気軽に立ち寄れるコミュニティの場の形成するとともに二次交通の強化を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日和山公園の環境整備</li> <li>空きビル再生事業、中町庁舎改修事業への取り組み</li> <li>中心市街地循環バスの運行 等</li> </ul>

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5－参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

添付様式5－④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2－①、2－②に記載した全ての指標について記入して下さい。  
 ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2－①、2－②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無		フォローアップ計画				
			年度	年度	年度	年度						予定時期	計測方法	その他特記事項		
指標1	歩行者・自転車通行量(平日)	人/日	2,276	H20	3,200	H26	確定	●	2,194	×	あり	●	→	平成27年4月	歩行者、自転車通行量調査を実施し、達成状況を確認する。	
							見込み				なし					
指標2	観光施設入込数	人/年	1,549,077	H19	1,610,000	H26	確定		1,542,055	×	あり	●	→	平成27年6月	観光振興課が把握している平成26年度における中心市街地内の主要観光施設14施設の入込数を集計し、確定値とする。	
							見込み	●			なし					
指標3	観光用自転車利用者数	人/年	9,382	H20	12,500	H26	確定		7,487	×	あり	●	→	平成27年4月	観光振興課が把握している平成26年度の観光用自転車の利用者数を集計し、確定値とする。	
							見込み	●			なし					
指標4	中心市街地住みやすさ調査	%	34.7	H19	40.0	H26	確定	●	39.5	△	あり	●	→	平成27年以降	中心市街地に関する聞き取り調査の際に実施して確認する。	
							見込み				なし					
その他の数値指標1							確定				あり	●	→			
							見込み				なし					
その他の数値指標2							確定				あり	●	→			
							見込み				なし					
その他の数値指標3							確定				あり	●	→			
							見込み				なし					



## 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	・指標のほとんどは年度毎の整理が行われているものであり、交付期間途中に供用した事業の効果を確認することができた。	・目標数値の設定は、毎年定期的に更新されるデータを選定することでモニタリングが容易となるとともに、効果発現要因を把握することができる。
	うまくいかなかった点	・ロケ地となった映画のアカデミー賞受賞と東日本大震災という観光施設入込数に影響する両極端な事象が計画期間内に発生したため数値目標に大きな影響があった。	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点		・関連事業に掲載している民間事業については、都市再生整備計画事業との数値目標の位置付けを慎重に考慮することが必要である。
	うまくいかなかった点	・関連事業に中心市街地の主要な整備事業が含まれているため、関連事業の未着手の状況から数値目標に大きく影響した。	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点		・酒田市中心市街地活性化協議会と連携し、意見交換をする機会を増やすことが必要である。
	うまくいかなかった点	・住民の意見を聞く機会が少なかった。	
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	・採用した指標のほとんどは年度毎の整理が行われているものであり、モニタリングを容易に実施することができた。	・モニタリングの実施は、事業の進捗状況を確認する上で有効である。
	うまくいかなかった点		
その他	うまくいった点		
	うまくいかなかった点		

### 添付様式6－参考記述 今後、交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

・今後の都市再生整備計画事業交付金の活用予定  
引き続き切れ目ない新計画を策定し、中心市街地の活性化に向けて取り組んでいく。  
(湊酒田中心市街地地区(第2期)都市再生整備計画を作成中)

## (5) 事後評価原案の公表

### 添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市のホームページに掲載	平成27年3月2日～13日	公表期間と同様	担当課への FAX、電子メール等	都市デザイン課
広報掲載・回覧・個別配布	-	-	-		
説明会・ワークショップ	-	-	-		
その他	市担当課窓口での閲覧	平成27年3月2日～13日	公表期間と同様		

住民の意見	なし				
-------	----	--	--	--	--

## (6) 評価委員会の審議

### 添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	・高谷 時彦 [東北公益文科大学大学院 特任教授] (建築・都市デザイン)	平成27年3月16日	都市デザイン課	都市再生整備計画事後 評価委員会設置協議書	独自に設置
その他の委員	・酒田商工会議所専務理事 ・酒田まちづくり開発株式会社代表取締役				

審議事項		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	事後評価が適正に実施されていることが確認された。
	成果の評価	評価は未達成であるが、実態を反映した結果であることが確認された。
	実施過程の評価	中心市街地活性化協議会について、事業推進にあたっての中核組織になってほしいとの意見があった。また、意見交換の機会を増やすことによって、結果的に市民が関心を示すことにつながり、官民一体となった事業ができるのではないかという意見があった。
	効果発現要因の整理	妥当に整理されていることが確認されたが、先につながるようなコメントがあっても良いとの意見があった。
	事後評価原案の公表の妥当性	妥当に実施されていることが確認されたが、もっと市民が関心を示すような公表の工夫が必要との意見があった。
	その他	特になし
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	事後評価の手続きは妥当に進められているものと認められた。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	評価結果を踏まえ、引き続き切れ目なく新計画を策定し、中心市街地の活性化に取り組んでいくことが確認された。
	フォローアップ	フォローアップ計画について、妥当であることが確認された。
	その他	都市デザインの視点を持ってまちづくりを考えてほしいという意見があった。
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	今後のまちづくり方策は妥当であると認められた。
その他	特になし	